

令和元年 1 1 月

第 5 学年保護者様

新宿区立淀橋第四小学校

**令和元年度東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」（第 5 学年対象）
における本校の結果分析と今後の学習指導の取組について**

1 東京都「児童・生徒の学力向上を図るための調査」について

東京都の小学 5 年生と中学 2 年生を対象として、「児童・生徒の学力向上を図るための調査」が行われました。本校児童の結果のまとめと、今後の取組をお知らせします。

2 結果の分析と今後の取組（○現状、△課題、→改善のための本校の取組）

実施 教科	
国 語	○授業の内容がよく分かる・分かるといった肯定的な意見が 9 4 % いる。 →児童の実態に応じた学習意欲を高める取組を通して、児童が自信をもっていることが分かる。 ○物語の全体をとらえて読むことや行動に着目して読むことができています。 →1 日の読書時間が 1 時間以上の児童は 1 時間以下の児童よりも物語の読み取りができています。朝読書の時間や読み聞かせを引き続き続けていく。 △言語についての知識・理解・技能において課題が見られる。 →文章を読むときに、主語・述語・修飾語（詳しくする言葉）に着目させることを進めていく。
社 会	○知識・理解に関する設問では東京都の平均を上回っている。 △資料をもとに、人々の思いや願い、行動の理由を考えたり、読み取ったりすることに課題が見られる。 →児童が学習内容を自分にかかわりがあることと捉えて調べたり、考えたりすることができるよう教材を工夫する。 △繰り返すことや自分で調べることが少ないという理由から、他の教科に比べると、よく分かったと答えた児童が少ない。 →授業の始めに前時の振り返りを行うことや学習問題づくり、学習計画づくりを通じて、児童が見通しをもって学習を進められるようにする。

算数	○技能において東京都の平均を大きく上回っている。 →チャレンジタイムの成果が出ていると考えられるので、引き続きチャレンジタイムを続けていく。 ○授業の内容がよく分かる・分かるといった肯定的な意見が97.7%いる。 △分度器や時計といった具体物の活用が必要な学習において課題が見られる。 →具体物を活用する時間を十分に確保するとともに、日常生活で活用できる場面を設け、児童が具体物を身近に感じ学べるようにしていく。 △文章や資料の量が多い設問や筋道を立てて考える必要のある設問に課題が見られる。 →授業で、情報を短くまとめることに取り組む。また、情報を整頓しやすい板書やノートを工夫することで、筋道を立てて考えることの素地を養う。
理科	○実験や観察が好きと答えた肯定的な意見が91.2%と多い。また、「技能」の結果は、東京都の平均を上回っている。 △知識の定着や学んだことを表現する力に課題が見られる。 →実験や観察を行う際に、予想や根拠を明確にしてから学習を進め、結果のまとめ方や考察を確実に行之、知識の定着や表現力を高めることにつなげていく。
質問紙調査 児童・生徒	○自分の住む地域や社会をよくしたいという思いをもった児童が90.7%いる。 →学習サポートや出前授業などを通じて、引き続き、地域の方との連携を進めていく。 ○英語を使えますかとの設問に95.4%の児童が肯定的に答えている。 →研究課題校として、学習内容を精選してきたことが成果といえる。今後も児童の伝えたいという意欲を高めるための授業改善を図る。 △1日の読書時間が1時間未満の児童が69.8%おり、半数を超えている。 →読書の大切さを児童に指導するとともに、互いに本を紹介する活動を取り入れて読書に親しむ心情を育てていく。

3 結果のご家庭での活用について

結果をご覧いただき、お子さんの得意な分野や苦手な分野を知る材料として活用してください。家庭学習は、学年×10分として、5年生では50分間取り組むことが望ましいです。各学級で課される宿題の他に、基礎を見直して苦手な分野を克服する学習にも取り組むとさらに力が伸びると考えられます。また、得意な分野をさらに伸ばしていく発展的な学習に取り組むのもよいでしょう。学校での学習指導においても、ノートを丁寧に書かせ、復習しやすい環境を整えます。子どもたちの意欲の高さや発想のよさを活かしつつ、折にふれて振り返りを含めながら基礎・基本の定着を確認し、学習を進めていけるように努めていきます。